

## 1. 授業評価の目的

学校教育法の改正により、大学・大学院において第三者評価が義務づけられ、専門職大学院においては5年に1回の第三者による認証評価を受けることが求められている。大学・大学院に対する第三者評価制度の導入は、自己点検・評価とともに教育研究水準の継続的な向上を目的としたものである。本学は「授業を通じた知的活性化」を全学的目標として掲げている。また、本経営戦略研究科は、教員の資質維持向上の方策のひとつとして、「授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の実施」に取り組んでいる。

本研究科では、授業内容および授業方法の改善を図るため、各クォーターの最終授業時に、学生による授業に関するアンケートと教員の担当科目自己評価を実施することとしている。授業評価の目的は、本研究科学生の実態や現状、学生の授業に対する認識・反応などをアンケートから探り、その結果を分析することによって、教育の現場に反映させる基礎資料を作成し、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育の質的向上を図るとともに、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育固有の教学上の諸課題を把握し、解明することにある。ここで注目したいのは、この学生アンケートと並んで、授業担当者自身の授業についての自己評価を学生の評価に合わせて実施していることである。これは、学生のアンケート結果と同時に実施されており、各教員は学生の授業評価結果の最終試験結果を見ない段階で授業を振り返ってアンケートの記入を行った。このような試みは、学生の評価と対照することでより良い授業のヒントが得られるものと思われる。

本報告書は、本経営戦略研究科において2009年度秋学期に開講した授業についての評価アンケート結果をまとめたものである。これまでの「授業評価アンケート結果報告書」と同様に、本報告書の構成は、2009年度秋学期授業評価アンケート結果概要・分析、授業評価アンケート実施科目一覧、授業評価アンケートフォーム、アンケート結果（アンケート授業別集計結果）およびグループ・インタビュー調査結果からなっている。

授業評価に関する調査の企画、調査票の作成、および集計結果についての分析と本報告書の執筆については、本研究科教授会のもとに設置された「経営戦略研究科自己評価委員会授業評価・FD部会」のメンバーを中心として行われた。

調査の実施の方法等についての詳細は、以下の「調査実施方法及び期間等」のとおりである。今回の調査では、ほぼすべての授業科目および学生からの回答が得られた。アンケート実施に当たって、貴重な授業時間を割いていただいた各教員に感謝申し上げます。また、実際に回答を寄せていただいた学生諸君に深く謝意を表す。さらに、最終的には、調査票の発送・回収、整理の一番煩雑ではあるが重要な作業を行っていただいた経営戦略研究科事務室にも、この場を借りて御礼申し上げます。

## 2. 調査実施方法及び期間等

授業内容については、春学期（第1クォーター、第2クォーター）・秋学期（第3クォーター、第4クォーター）の授業終了時に受講生による授業評価を実施している。本報告の対象となる授業評価アンケートの実施方法や実施期間等については、以下のとおりである。

### （1）実施対象授業科目について

授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2009年度秋学期に開講されたすべての科目である。本研究科全体でみた場合、アンケート実施対象科目は143科目である。その内訳は、経営戦略専攻が72科目（企業経営戦略コース43科目および国際経営コース29科目）、会計専門職専攻が71科目であった。

現行カリキュラムのもとで、授業科目はコア科目群、ベーシック科目群およびアドバンスト科目群に分類されており、当該授業科目の性格上、複数クラスを開講している科目もある。し

たがって、授業評価アンケートを実施対象クラスでみた場合、本研究科全体で174クラスであった。その内訳は、経営戦略専攻が93クラス（企業経営戦略コース60クラスおよび国際経営コース33クラス）、会計専門職専攻が81クラスである。

#### （2）回答者、回答率等について

2009年度秋学期の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は2,257人（延べ人数、以下同じ）で、実際にアンケート調査を回答した者は1,929人であり、アンケート調査の回答率は85.5%であった。

各専攻別の内訳は次のとおりである。経営戦略専攻の授業科目の履修登録者数は1,224人（企業経営戦略コース1,032人および国際経営コース192人）で、アンケート調査の回答者数は1,060人（企業経営戦略コース897人および国際経営コース163人）であった。回答率は86.6%（企業経営戦略コース86.9%および国際経営コース84.9%）である。また、会計専門職専攻の授業科目の履修登録者数は1,033人で、アンケート調査の回答者数は869人であり、その回答率は84.1%であった。

#### （3）実施期間について

設置認可申請書に明記したように、授業評価は、春学期、秋学期の授業終了時に実施することとしている。したがって、2009年度秋学期の授業評価アンケートの実施期間は、第3クォーター開講科目については、2009年11月2日（月）～11月11日（水）の最終授業時に実施した。補講を実施した科目については、最終授業時となる2009年11月9日（月）～11月18日（水）に実施した。

また、第4クォーター開講科目については、原則的に2010年1月14日（木）～1月25日（月）の最終授業時に実施した。補講を実施した科目については、最終授業時となる2010年1月21日（木）～1月27日（水）に実施した。また、冬季集中講義の各科目については2010年1月28日（木）～3月4日（木）の最終授業時にかけて実施された。

#### （4）アンケートの実施について

授業評価アンケートは、次の手順で実施した。

- ①授業評価アンケート時間は、最終授業時の授業終了前15分間とする。
- ②最終授業開始前に、授業評価アンケート用紙の入った封筒を、経営戦略研究科事務室にて担当者氏名と担当科目を確認のうえ受け取る。
- ③最終授業開始時に、「授業終了15分前に授業を終了し、授業評価アンケートを実施する」旨を受講者に伝える。
- ④授業終了15分前に、授業担当者は授業評価アンケート用紙を受講生に配布し、その場で直ちに回答するよう指示する。当該用紙の配布および回答の指示後、学生の自由な回答・記入を促進するため、授業担当者は教室から退室する。
- ⑤学生による授業評価である「授業に関するアンケート」は、質問項目数14～15で最高ポイントを5とし、それぞれ5段階評価のマークシートである。
- ⑥授業終了後、授業担当者は教室に戻って授業評価アンケート用紙を回収し、所定の封筒に入れて事務室に返却する。なお、受講者の自由な回答を促進するためにも、授業担当者は、授業評価アンケート用紙の回収時および回収後も当該アンケートは閲覧しない。
- ⑦「教員の担当科目自己評価表」については、事前に電子メールにて配布され、該当科目の成績報告書提出締切日までに経営戦略研究科事務室に提出（eメール可）した。
- ⑧「教員の担当科目自己評価表」は、次のような自由記述形式の3つの設問からなっている。
  1. 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか。」

2. 「この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか。クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への質問などから総合してお答えください。(1) 実施してよかった点、(2) 改善・工夫をした方がよい点」
3. 「この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。」

#### (5) 集計

2009年度秋学期の授業評価アンケートについては、実施授業科目のクラスごとに集計を行った。この「授業評価アンケート集計結果」は、各授業クラスの履修登録者数、回答者数(学年別、所属専攻別、出身学部別の回答者数)、各設問の有効回答数、有効回答数の平均値および専攻平均値が示される。このうち、各設問の有効回答数の平均値と専攻平均値は、グラフによって視覚的にも明示している。

授業評価アンケートには、自由記述に関する設問が3問ある(「この授業で良かったところを具体的に書いてください」、「この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください」および「この授業に関連して気づいたことがあれば書いてください」)。学生による授業評価アンケート実施にあたっての基本的スタンスとして踏襲してきたように、この自由記述の回答内容については公表対象とせず、授業内容および方法の改善のための資料と資する目的から、授業担当者に配付している。

#### (参考) 2009年度春学期からの学生アンケート調査票及び分析方法の変更点

学生へのアンケート調査は、2009年度春学期からアンケート設問項目の内容の一部変更を行っている。具体的な変更点は、以下の通りである。

- ① 学生自身のことを尋ねる項目に「実務経験年数」および「公認会計士試験受験予定の有無」を加えた。
- ② 企業経営戦略コースについては、前回の設問10「この授業は将来の学習にとって有意義なものでしたか」という質問項目を外し、代わりに設問14で「この授業は仕事に役立ちましたか」を加えた。国際経営コースおよび会計専門職専攻については、設問10の代わりに設問14で「この授業は、今後の学習にとって有意義なものでしたか」を加えた。
- ③ 上記変更に伴って、前回の設問11「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」を設問10に、前回の設問12「この授業を受けるにあたって自分から文献を探すなど努力をしましたか」を設問11に変更した。
- ④ 前回の設問13「この授業は全般的に満足いくものでしたか」、設問14「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」の順番を入れ替え、今回のアンケートではそれぞれ設問13、設問12とした。
- ⑤ 国際経営コースでも、今回から調査票のフォーマットを変更し、経営戦略専攻企業経営戦略コース、および会計専門職専攻と共通の調査票を用いている(ただし質問項目14「授業内容の就職後の実用性」は国際経営コースで独自に追加した質問項目である)。
- ⑥ 分析方法として、設問1～12までの各設問と設問13「この授業は全般的に満足いくものでしたか」との間の相関係数を計算した。また、設問13と、設問4「授業で指定された教科書や配布された資料は学習の助けとなりましたか」、設問5「教員は学生が発言したり議論することに十分な配慮を払いましたか」、設問10「この授業を受けるにあたって十分な予習や復習を行いましたか」、設問11「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」との間でクロス集計を行った。

### 3. 経営戦略専攻企業経営戦略コース

#### A. 学生による授業評価アンケート

##### (1) 概観

学生による評価アンケートは、2009年春のアンケートより、設問1から設問9が「教員の授業内容と方法」について、設問10と設問11が「学生自身の取り組み」について、設問12から設問14が「授業の満足度」についてと変更された。

<設問毎の平均点及び問13とその他の問との相関係数>

| 番号 | 設問文                                | 平均点  | 問13との相関係数 |
|----|------------------------------------|------|-----------|
| 1  | 授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか。   | 4.58 | 0.592     |
| 2  | 教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか。            | 4.57 | 0.639     |
| 3  | 教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか。  | 4.71 | 0.574     |
| 4  | 授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか。 | 4.43 | 0.579     |
| 5  | 教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を払いましたか。   | 4.39 | 0.612     |
| 6  | 教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。       | 4.20 | 0.672     |
| 7  | この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。          | 4.28 | 0.557     |
| 8  | 授業の内容と時間配分は適正なものでしたか。              | 4.32 | 0.588     |
| 9  | 教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか。              | 4.54 | 0.692     |
| 10 | この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか。      | 4.03 | 0.506     |
| 11 | この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか。 | 4.01 | 0.452     |
| 12 | この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか。     | 4.15 | 0.692     |
| 13 | *この授業は全般的に満足いくものでしたか。              | 4.39 |           |
| 14 | この授業は仕事に役立ちましたか。                   | 4.30 | 0.704     |

今回のアンケート集計とクロス集計結果について分析すると、設問1から設問9の「教員の授業内容と方法」および設問12から設問14の「授業の満足度」に関しては、いずれの設問に対する回答の平均値も5段階評価で4.2を超えており、概して平均的な評価は高い水準を保っていると考えられる。

設問10と設問11の「学生自身の取り組み」についての質問項目に関しては、設問10「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」の平均値が4.03、設問11「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」の平均値が4.01と、「教員の授業内容と方法」や「授業の満足度」に関する設問の平均値よりは低くなっており、学生の積極的な予習や復習、自主的な文献探索を促す仕組みに関する工夫の余地があるように思われる。

各項目と設問13「この授業は全体的に満足いくものでしたか」との相関については、設問14「この授業は仕事に役立ちましたか」との相関係数が0.704と最も高くなっており、企業経営戦略コースの学生は仕事に役立つ講義に対して高い満足度を示す事が推察される。

また、設問12「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」との相関係数も0.692と設問14に次いで高くなっており、企業経営戦略コースの学生は分析能力や批

判力が養われる科目に対して高い満足度を示すことが推察される。

設問 1 から設問 9 の「教員の授業内容と方法」の設問項目で学生の満足度との相関が高かった項目としては（カッコ内は相関係数）、設問 9「教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか」（0.692）、設問 6「教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮していたか」（0.672）、設問 2「教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか」（0.639）、設問 5「教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を払いましたか」（0.612）などであった。

学生の満足度を高めるためには、教員は十分に準備をして授業に臨むことはもとより、学生が発言したり議論したりすることを促すとともに、個々の学生の内容理解の水準にも目配りして質問に丁寧に答えることが求められよう。

これらの学生の満足度と相関が高い設問のうち、学生からの評価の平均点が比較的低かった設問として、設問 6「教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮していたか」の平均点が 4.2 と設問 1 から設問 9 の「教員の授業内容と方法」の設問項目中で一番低かった。多様な学歴や職歴を持ち、履修の自由度との兼ね合いで場合によっては必要となる科目の履修が済んでいないなど知識レベルが様々な学生に対して、個々の内容理解の水準を考慮して授業を進めるのは多くの困難が伴うが、それを乗り越えたとき、専門職大学院の顧客である学生の満足度が高まるのであろう。

## （2）全般的評価についての時系列推移

以下では、質問内容別の全般的評価を見ていく。「教員の授業内容と方法」への評価に対する質問（設問 1 から設問 9）についての平均は 4.45（2009 年春学期比プラス 0.08 ポイント）、「学生自身の取り組み」（「学習への事前準備」）に対する質問（設問 10 と設問 11）についての平均は 4.02（2009 年春学期比プラス 0.08 ポイント）、「授業に対する満足度」に対する質問（設問 12 から 14）についての平均は 4.28（2009 年春学期比プラス 0.09 ポイント）であった（以上、推移や差異を明確にするため、小数点第二位まで表記している）。

全体的に高い水準を保っており、比較可能な 2009 年春学期よりいずれの項目でも上昇している。ただし、春学期と秋学期では開講科目が異なること、学生の母集団の一部が卒業及び入学によって変化していること、変化の幅がいずれの項目でも 0.1 より小さく、統計的に有意かどうか不明なこと等に留意が必要である。

### < 学生評価の推移 >

|                            | 2006 年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2007 年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2008 年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2009 年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2009 年度<br>春学期と<br>2009 年度<br>秋学期比較 |
|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------------|
| 教員の授業内容と方法<br>（設問 1～設問 9）  | 4.24<br>4.26                | 4.27<br>4.43                | 4.44<br>4.52                | 4.37<br>4.45                | +0.08                               |
| 学生自身の取り組み<br>（設問 10～設問 11） | 3.70<br>3.80                | 3.75<br>3.85                | 3.91<br>4.01                | 3.94<br>4.02                | +0.08                               |
| 授業に対する満足度<br>（設問 12～設問 14） | 4.07<br>4.03                | 4.17<br>4.30                | 4.27<br>4.36                | 4.19<br>4.28                | +0.09                               |

### (3) 個別項目についての推移

全般的な評価が2009年の春学期と比較するといずれも微増であったように、個別で見ても、9項目中5項目で評価にわずかではあるがプラスの変化が見られた。プラスに変化した項目は、設問1「授業内容はシラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか」、設問4「授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか」、設問6「教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか」、設問7「この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか」、設問8「授業の内容と時間配分は適正なものでしたか」である。

ただし、これらの項目は2009年春に、2008年春と比較してマイナスに変化した項目であり、変化の幅も小さく、統計的に有意かどうか不明である。学生の一部が卒業及び入学によって変化していることについても留意が必要である。

各項目の平均は、設問2「教員は十分に準備して授業にのぞんでいましたか」、設問3「教員は担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」、設問5「教員は学生が発言したり議論することに十分な配慮を払いましたか」、設問9「教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか」はプラスマイナスゼロで変化はなかった。教員の授業に対する姿勢や学生に対する配慮に関しては水準が高いレベルで変化がない結果を示している。

#### <項目別の学生評価推移①>

|     | 2006年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2007年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2008年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2009年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2009年度<br>春学期と<br>2009年度<br>秋学期比較 |
|-----|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------------|
| 設問1 | 4.4<br>4.4                 | 4.4<br>4.6                 | 4.6<br>4.6                 | 4.5<br>4.6                 | +0.1                              |
| 設問2 | 4.5<br>4.5                 | 4.4<br>4.5                 | 4.6<br>4.6                 | 4.6<br>4.6                 | ±0.0                              |
| 設問3 | 4.6<br>4.6                 | 4.6<br>4.6                 | 4.7<br>4.8                 | 4.7<br>4.7                 | ±0.0                              |
| 設問4 | 4.1<br>4.2                 | 4.2<br>4.4                 | 4.4<br>4.5                 | 4.3<br>4.4                 | +0.1                              |
| 設問5 | 4.2<br>4.3                 | 4.3<br>4.4                 | 4.4<br>4.5                 | 4.4<br>4.4                 | ±0.0                              |
| 設問6 | 3.9<br>4.0                 | 4.0<br>4.2                 | 4.2<br>4.3                 | 4.1<br>4.2                 | +0.1                              |
| 設問7 | 4.0<br>4.0                 | 4.1<br>4.3                 | 4.3<br>4.3                 | 4.2<br>4.3                 | +0.1                              |
| 設問8 | 4.0<br>3.9                 | 4.0<br>4.3                 | 4.2<br>4.3                 | 4.1<br>4.3                 | +0.2                              |
| 設問9 | 4.4<br>4.4                 | 4.4<br>4.5                 | 4.5<br>4.6                 | 4.5<br>4.5                 | ±0.0                              |

「学生側での予習・復習」(設問 10) は、4.0 ポイントで 2008 年度春学期から変化はなかった。「授業を受けるに当たっての文献探査」(設問 11) は 4.0 で、2008 年度春学期から 0.1 ポイント上昇した。

<項目別の学生評価推移②>

|       | 2006 年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2007 年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2008 年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2009 年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2009 年度<br>春学期と<br>2009 年度<br>秋学期比較 |
|-------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------------|
| 設問 10 | 3.7<br>3.8                  | 3.8<br>3.9                  | 4.0<br>4.0                  | 4.0<br>4.0                  | ±0.0                                |
| 設問 11 | 3.7<br>3.8                  | 3.7<br>3.8                  | 3.9<br>4.0                  | 3.9<br>4.0                  | +0.1                                |

「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」(設問 12) は 4.2 で、2009 年春学期と比較し 0.1 ポイント上昇した。「授業が全般的に満足いくものであったか」(設問 13) は 4.4 で、2009 年度春学期と比較して 0.1 ポイント上昇した。「この授業は仕事に役立ちましたか?」(設問 14) は 4.3 で 2009 年度春学期と比較して 0.1 ポイント上昇した。

<項目別の学生評価推移③>

|       | 2006 年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2007 年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2008 年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2009 年度<br>上段：春学期<br>下段：秋学期 | 2009 年度<br>春学期と<br>2009 年度<br>秋学期比較 |
|-------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------------|
| 設問 12 | 3.9<br>3.9                  | 3.9<br>4.2                  | 4.2<br>4.3                  | 4.1<br>4.2                  | +0.1                                |
| 設問 13 | 4.2<br>4.1                  | 4.2<br>4.4                  | 4.3<br>4.4                  | 4.3<br>4.4                  | +0.1                                |
| 設問 14 |                             |                             |                             | 4.2<br>4.3                  | +0.1                                |

B. 教員による担当科目自己評価

教員による授業アンケートは、各担当教員に「教員担当科目自己評価表」が配られ、教員自身が「科目を担当するに当たって最も力を入れたこと」、「実施して良かった点と改善・工夫をした方がよい点」、「当初予定していた目標は達成されたか」の 3 つの項目に関して記述式で回答したものであり、学生評価のような定量的な評価ではない。

以下では、コア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の 4 つの科目群に分けて、各質問項目について分析・考察する。教科を教えるにあたっての教員の様々な工夫や努力を紹介し、他の教員の参考とするためにもできるだけコメントを多く掲載した。

(1) コア科目群：

「最も力を入れたこと」に関しては、「必ずしも履修意欲が高くない学生に対して、考える機会を与え、科目の積極的な意義を理解してもらう」、「企業経営を構想するベーシックな思考力の養成」、「最新の教科書の使用」、「新聞記事、雑誌記事などの活用」、「理論と演習の balan

ス」などの意見があった。専門職大学院に求められる理論と実践の融合のために様々な工夫に力を入れている教員の姿勢が伺える。

「実施してよかった点」に関しては、「宗教総主事による建学精神、キリスト教主義についての講話」、「ゲストスピーカーによる講義」、「受講生の投票による最優秀グループワーク賞の選定」、「小レポートを書いてもらう」、「近江商人に関する教育 DVD の鑑賞」、「小テストの実施とメールによるテスト結果を受けた個別フィードバック」、「期末プロジェクト中間発表の実施」、「2 回のレポート」「グループワークの促進」などがあった。建学の精神や現実のビジネスとの関わりを理解させたり、きめ細かく課題を課したりフィードバックしたりすることで学生の授業に対する積極的な関心を喚起する工夫をしている点は参考になろう。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、「ケース討議における学生間の討議の促進」、「学生の発言機会の増大」など、授業にいかにして学生の主体的な関与を促すかが課題となっている。

上述のような課題はあるものの、「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かった。

## (2) ベーシック科目群：

概観すると、ベーシック科目群もコア科目群と同様、基本的な理論とその現場への応用、学生の考える力と理解力をつけることを目的にした授業を行うことに力を注いでいる様子が見えがえる。

「最も力を入れたこと」に関しては、「ベーシックな理論や分析フレームワークを実際のケースに応用して分析する力を養う」、「データに基づいて説得的なプレゼンテーションをする力を養う」、「講義の他にケースやディスカッションを通じて基礎的な知識を体系立てる」、「高所大局からマーケティングを捉える」、「わかりやすく親しみを感じる」、「具体的な数値を実際に計算してもらうことで・・・理論を現実のプロジェクト評価にどのように結びつけていったらよいかを学習してもらう」、「既成概念の打破」、「自分で問題解決に至るプロセスを構築できる能力を養う」などの意見があった。

「実施してよかった点」に関しては、「講義したフレームワークを使って自社の分析をする」、「ケースのグループ発表」、「レポート提出の翌週に優れているレポートを紹介して課題について解説した」、「演習問題を 30 分ほど講義の間に挟んだ」、「毎回宿題提出」、「毎回今日学んだことの要約と質問事項を提出してもらった」、「外部講師を招いての講演会」などが挙げられた。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、授業の中身に関しては「具体的な事例の増加」を挙げる意見があった。「理論の解説にこだわりすぎたため、やや時間配分が苦しいものとなった」講義もあった。講義のマネジメントに関しては、「発言に対して、米国の B S の授業のように、より多く批判的なコメントをすべき」、「欠席者への対応」、「早いうちに受講者のバックグラウンドを把握する」、「グループワークへのコミットメントの個人差の解消」などが挙げられた。また、前提となる基礎知識についてどのような形で教えたらいかが迷っているとの意見があった。

「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、レポートの出来が例年より悪かったため「成績におけるレポートの比率を高くする」必要性を指摘する意見もあった。

## (3) アドバンス科目群：

アドバンス科目に関しては、専門内容の深い理解とケースを使用した実践での応用を中心にした授業が多くみられた。

「最も力を入れたこと」に関しては、「既往の諸学説を・・・良く理解する」、「歴史を経た事例を学ぶ」、「受講者の職場での問題意識と学会での研究成果を接合する」、「事例を深く掘り下げ、客観的な分析とその結果を今日的な課題として講義に供する」などがあった。

「実施してよかった点」に関しては、「起業家ミュージアムの見学とそこでの授業」など場所を移しての講義を行ったケースがあった。

授業の運営方法としては、「最初の自己紹介」、「事業計画書の作成演習」、「毎回の授業にディスカッションとプレゼンテーションを取り入れる」、「オンライン形式でのゲーム」、「ゲストスピーカーを招いての講義」、「講義資料の事前配布」といった実践的な取り組みが見られた。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、講義の時間配分やシラバス通りの進行に改善の余地が指摘された。ケース分析を授業の中心にしたものは、適切な時間配分と教員の高度なスキルが必要であることをうかがわせる。

また、アドバンス科目において顕在化した意見として「各人の予備知識、授業に求める内容が非常に異なっており、どのレベルで、どのようなテーマを選んで講義すべきか、最初のうちは手探りにならざるを得ない」というものがあった。

「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、受講者の知識レベルに差が大きいためか「わかっている人には説明がくどく、そうでない人には結局不十分な説明になっていたのではないかと危惧」する教員もいた。

#### (4) 課題研究科目群：

課題研究の科目群に関しては、学生自ら発想し、テーマの設定、深くテーマの追及を行って研究を纏めていくプロセスを導いていく授業を目指したものが多かった。

「最も力を入れたこと」に関しては、「果敢に仮説を掲げ」、「データなど根拠を示して説得的な議論を展開」し、「各職場で最も有効な解決策を提案できる」ことを目的とした指導が行われていた。教員によっては「学会発表に耐えうる、論文としてしっかりとした体裁と中身が整っている課題研究論文の作成」という高度な目標を掲げる者もあった。

「実施してよかった点」に関しては、「夏休み前の授業」によって早期に研究を着手させることや、受講者数の多い場合に「毎回 30 分前開始、30 分以上延長」や「隔週での課題提出」などによって補う工夫、「skype 等を使った授業時間外での指導」が挙げられた。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、課題研究指導教員の決定法に関し、「現在のところ、学生の希望を最重視している。したがって、研究テーマからすると他の教員が指導するのが適切な学生でも、制限人数以内ならば引き受けなければならない。結果的に指導が不適切になることもある。学生には研究テーマにあった教員を選ぶようガイダンスすることが必要」という指摘があった。今後の検討課題であろう。また、「インタビューの結果をまとめる方法についてももう少し体系的な手引きが必要」といった研究手法の指導法に関するものや、研究の進捗管理など時間マネジメント面での課題も指摘された。

「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、一部に「課題研究が始まってすぐにフィールドワークに取り組みせたいが、問題意識の低い履修生の場合、論文提出の 1 ヶ月前になっても取り組めない人がいる。課題研究基礎の段階で、しっかりした指導を行い、連続性を重視するような対策を講じたい」という意見もあった。

#### 4. 経営戦略専攻国際経営コース

##### A. 学生による授業評価アンケート

2009年度春学期から調査票のフォーマットを変更し、国際経営コースでも、経営戦略専攻企業経営戦略コース、および会計専門職専攻と共通の調査票を用いている（ただし質問項目14「授業内容の就職後の実用性」は国際経営コースで独自に追加した質問項目である）。尺度の変更を行ったこともあり、前年同期との直接的な比較は難しくなっている。

学生による授業評価結果は、前回同様、概ね良好である。いずれの質問項目の平均値も「Strongly agree」、「Agree」の中間の値となっている。平均値が「Agree」の水準を割り込むといったような事態は発生していない。国際経営コースの各科目への満足度は総じて高いといえる。特に、教員側の要因（「授業の準備」（質問項目2）、「専門知識」（質問項目3）、「発言・議論への配慮」（質問項目5）、「内容理解度の考慮」（質問項目6）、「質問への対応」（質問項目9））、および「授業内容とシラバスとの整合性」（質問項目1）に関しては高い評価が得られており、結果として、「就職後の実用性」（質問項目14）、「この授業を他の学生に推薦するか否か」（質問項目13）でも約9割の学生が「Strongly agree」、ないしは「Agree」と回答している。中でも「授業内容とシラバスとの整合性」（質問項目1）、「内容理解度の考慮」（質問項目6）、「質問への対応」（質問項目9）などの質問項目で高評価を獲得できている点は評価に値する。これらの項目は、学生の総合的な満足度の代替指標ともいえる「この授業を他の学生に推薦するか否か」（質問項目13）との相関が高いことが示されているからである。逆にいえば、これらの質問項目での高評価が、全体的な満足度の主要な要因の一つになっているものと考えられる。

一方で、今回の調査から読み取れる大きな課題は、前回同様、「分析能力・批判能力の習得」（質問項目12）で改善の必要性が大きいという点である。これらの項目は「この授業を他の学生に推薦するか否か」（質問項目13）との相関が非常に高いにも拘らず、他の質問項目に比べて学生の満足度が低いのである。したがって、これらの項目での改善は、学生の総合的な満足度を高める上での効果が大きいものと考えられ、今後の改善努力を集中すべき領域であるものと考えられる。科目ごとの集計結果（表1、各回答者の平均値、小数点第二位を四捨五入した）を見ても、これらの項目に関しては3.0～5.0と非常にバラつきが大きく、改善の余地の大きさがうかがわれる。

(表1) 科目ごとの平均値(問12、13)

|  | 問12 | 問13 |
|--|-----|-----|
| コア                                     | 4.1 | 4.3 |
| Accounting for Decision Making         | 3.6 | 3.6 |
| Business Economics                     | 4.1 | 4.6 |
| English Communication                  | 4.7 | 4.8 |
| Management                             | 4.3 | 4.7 |
| Statistics                             | 4.0 | 4.1 |
| ベーシック                                  | 4.3 | 4.6 |
| Advanced English for Business Practice | 4.3 | 4.5 |
| Corporate Finance                      | 4.3 | 4.7 |
| Corporate Strategy                     | 4.2 | 4.7 |
| Designing Organizational Systems       | 4.0 | 4.7 |
| Financial Reporting and Analysis       | 4.1 | 4.7 |
| International Management               | 5.0 | 5.0 |
| Leadership and Corporate Renewal       | 4.4 | 5.0 |

|                                  |     |     |
|----------------------------------|-----|-----|
| Marketing Management             | 4.7 | 3.5 |
| Marketing Strategy               | 4.2 | 4.2 |
| Making Ethical Decisions         | 4.8 | 5.0 |
| Principles of Finance            | 4.1 | 4.7 |
| アドバンスト                           | 4.3 | 4.4 |
| Brand Management                 | 4.3 | 4.6 |
| Corporate Restructuring          | 4.3 | 4.3 |
| Financial Risk Management        | 3.0 | 3.3 |
| Group Research Project           | 4.6 | 4.8 |
| Individual Research              | 5.0 | 5.0 |
| Industrial Organization          | 4.7 | 4.7 |
| International Marketing Practice | 3.9 | 4.0 |
| International Accounting         | 4.2 | 4.2 |
| Management Information System    | 3.5 | 3.0 |
| Marketing Case Analysis          | 4.0 | 4.3 |
| Marketing Communication          | 4.5 | 4.8 |
| Portfolio Management             | 4.0 | 4.7 |
| 総計                               | 4.2 | 4.5 |

#### B. 担当教員による授業評価アンケート

「実施してよかった点」としては、①学生の理解を深める方策、と②学生のモチベーションを高める方策、の2点に触れている教員が最も多い。「①学生の理解を深める方策」の具体例では、ケース素材などの実例を利用する、新聞・雑誌などの記事から時事問題を素材に取り上げる、授業内でロールプレイやシミュレーションを実施する、ビデオ教材を活用する、などが挙げられている。「②学生のモチベーションを高める方策」に関しては、頻繁に小テストを実施する、教室を出てビジネスの現場を社会見学する、といった施策が挙げられている。逆に言うと、上記「A. 学生による授業評価アンケート」で課題として指摘した、「分析能力・批判能力の習得」に明示的に触れている教員は少なく、教員側の目標設定の修正が、依然として改善の第一歩だと考えられる。

こうした傾向にはコア、ベーシック、アドバンストの各科目間では大きな違いは見られない。強いて特徴を挙げるとすれば、コア科目では「②学生のモチベーションを高める方策」が、ベーシック科目、アドバンスト科目では「①学生の理解を深める方策」が相対的に重要視されている。しかし総体的には両者に配慮した授業運営が志向されていることには大きな差がなく、実質的な違いというほどのものではないものと思われる。

一方で、「改善・工夫をした方がよい点」としては、討議の質を深める、学生によるプレゼンテーションの機会を増やす、といった各教員自身の取り組みで解決できるものから、日本の企業に関するケース素材を増やす、などの組織としての解決施策が必要なものまで、様々な改善・工夫点が挙げられている。ことに今回の授業評価アンケートでは、教育目的に合致した日本語の素材があるが、著作権の関係上、翻訳ができず、日本語のまま授業で使用してしまった、といった声も挙げられている。英語の教育素材の充実は、国際経営コース全体の課題として組織的な取り組みが必要であるものと考えられる。

これらの改善・工夫点は主にベーシック科目、アドバンスト科目で指摘されているものである。逆にいえば、コア科目では主要な改善・工夫点の指摘は限られており、各教員とも授業運営に大きな改善の必要を見出していない。その一方で、「分析能力・批判能力の習得」に関しては、コア科目に限ったとしても、全ての科目が十分な評価を獲得するには至っていないのは

上述したとおりである。今回の授業評価アンケートを受けて、こうした課題に関する教員間の共通認識を形成していくことが重要であると考えられる。

## 5. 会計専門職専攻

### A. 学生による授業評価

#### (1) 概要

学生による授業評価アンケートは、①教員の授業内容と方法について、②あなた自身の取り組みについて、③授業の全般的評価について、④コア、ベーシックおよびアドバンストの科目区分などについての14項目の設問に、学生が5段階評価で答える方式である。

#### (2) 設問項目

学生による授業評価アンケートは、経営戦略専攻の「学生による授業評価アンケート」でも明記したように、設問1から設問9が「教員の授業内容と方法」について、設問10および設問11が「あなた自身の取り組み」について、設問12から設問14が「授業の全体的評価」について問うものである。

#### (3) 全体評価～専攻平均値～

専攻平均値は、すべての設問の評点を延べ回答人数で平均したもの（総平均値、四捨五入）である。2005年度春学期から2009年度春学期にかけての専攻平均値の推移は、次のとおりである。開設以来2007年秋学期まで上昇し続け、それ以来2008年度秋学期まで4.4ポイントから4.5ポイントと高い値を記録していた。前回の2009年度春学期には、4.3ポイントと依然として高い数値であるものの、0.2ポイント低下した。この点、2009年度春学期には約1週間にわたるインフルエンザによる休講措置の影響の可能性が考えられていた。今回は、前々回の水準に戻っており、全体として、今後ともこの水準の維持・向上が期待される。

<すべての設問に対する総平均値の推移>

|     | 2005年度 | 2006年度 | 2007年度 | 2008年度 | 2009年度 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 春学期 | 3.9    | 4.2    | 4.3    | 4.4    | 4.3    |
| 秋学期 | 4.2    | 4.3    | 4.5    | 4.5    | 4.5    |

#### (4) 個別評価

##### ① 設問別平均値

設問別平均値は、個々の設問の評点をのべ回答人数で平均したものであり、これを科目区分ごとの平均値（四捨五入）でまとめたものは、次のとおりである。

##### ② 教員の授業内容と方法

専攻全体に関して、「教員の授業内容と方法」に関して評点が4.5ポイントを超える高い評点を得た設問は、設問1「授業の内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか」、設問2「教員は十分に準備して授業に臨んでいましたか」、設問3「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門的知識を持っていましたか」、設問4「授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか」、および、設問9「教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか」、設問14「この授業は将来の学習にとって有意義なものでしたか」である。

設問5「教員は学生が発言したり議論することに十分な配慮を払いましたか」、設問7「こ

の授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか」、設問 8 「授業の内容と時間配分は適正なものでしたか」、および、設問 13 「この授業は全般的に満足のものでしたか」の評点は 4.5 ポイントである。

＜設問 1 から設問 10 の平均値＞

|           | 設問<br>1 | 設問<br>2 | 設問<br>3 | 設問<br>4 | 設問<br>5 | 設問<br>6 | 設問<br>7 | 設問<br>8 | 設問<br>9 | 設問<br>10 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|
| 専攻全体      |         |         |         |         |         |         |         |         |         |          |
| 2009年度春学期 | 4.6     | 4.6     | 4.8     | 4.5     | 4.3     | 4.2     | 4.3     | 4.3     | 4.5     | 3.9      |
| 2009年度秋学期 | 4.7     | 4.7     | 4.8     | 4.6     | 4.5     | 4.4     | 4.5     | 4.5     | 4.6     | 4.1      |
| コア科目      |         |         |         |         |         |         |         |         |         |          |
| 2009年度春学期 | 4.5     | 4.6     | 4.8     | 4.4     | 4.2     | 4.1     | 4.2     | 4.2     | 4.4     | 3.9      |
| 2009年度秋学期 | 4.7     | 4.7     | 4.8     | 4.6     | 4.5     | 4.3     | 4.4     | 4.4     | 4.6     | 4.1      |
| ベーシック科目   |         |         |         |         |         |         |         |         |         |          |
| 2009年度春学期 | 4.6     | 4.7     | 4.8     | 4.6     | 4.4     | 4.3     | 4.2     | 4.4     | 4.7     | 4.0      |
| 2009年度秋学期 | 4.7     | 4.7     | 4.8     | 4.6     | 4.5     | 4.4     | 4.5     | 4.6     | 4.6     | 4.1      |
| アドバンスト科目  |         |         |         |         |         |         |         |         |         |          |
| 2009年度春学期 | 4.7     | 4.8     | 4.8     | 4.7     | 4.5     | 4.5     | 4.5     | 4.6     | 4.7     | 4.0      |
| 2009年度秋学期 | 4.7     | 4.7     | 4.8     | 4.6     | 4.5     | 4.4     | 4.5     | 4.5     | 4.7     | 4.0      |

＜設問 11 から設問 14 の平均値＞

|           | 設問<br>11 | 設問<br>12 | 設問<br>13 | 設問<br>14 |
|-----------|----------|----------|----------|----------|
| 専攻全体      |          |          |          |          |
| 2009年度春学期 | 3.8      | 4.1      | 4.4      | 4.5      |
| 2009年度秋学期 | 4.0      | 4.3      | 4.5      | 4.6      |
| コア科目      |          |          |          |          |
| 2009年度春学期 | 3.7      | 4.0      | 4.3      | 4.4      |
| 2009年度秋学期 | 3.9      | 4.2      | 4.5      | 4.6      |
| ベーシック科目   |          |          |          |          |
| 2009年度春学期 | 3.8      | 4.2      | 4.5      | 4.6      |
| 2009年度秋学期 | 4.1      | 4.3      | 4.6      | 4.7      |
| アドバンスト科目  |          |          |          |          |
| 2009年度春学期 | 3.9      | 4.2      | 4.6      | 4.6      |
| 2009年度秋学期 | 4.0      | 4.3      | 4.5      | 4.6      |

4.5 ポイント未満の評点の設問は、設問 6 「教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか」のみであり、前回同様、コア科目の評点が低い。コア科目は、導入教育に該当する科目が多く、講義形式で実施されることや、導入教育段階であることから課題への取り組みにとりわけ負荷を感じていることも想起される。

専攻全体に関するこれらの結果は、学生が教員の授業内容の意義について理解しており、会計専門職専攻開設以来の教育面での一定の成果といえることができよう。前回の調査では、ほとんどの設問で前々回調査から 0.1 から 0.2 ポイント低下していたが、今回の調査結果は、設問 3 を除いて、前回調査の調査結果よりも 0.1 から 0.2 ポイント上昇している。

ただし、科目区分では、ベーシック科目では設問 9 が、アドバンスト科目では設問 2、設問

4、設問6、設問8がポイントを下げていることから、今後とも、授業の十分な準備や、適切な授業の運営、実施とともに、質問等の対応を含めた個々の学生に対する一定の配慮に関する改善に向けて、より一層の研鑽を期待したい。

### ③ 学生自身の取り組み

「学生自身の取り組み」を問うた設問10および設問11の評価点のこれまでのアンケート調査結果の推移は、次のとおりである。

＜学生自身の取り組みに係る評点の推移＞

|      | 2005年度<br>春学期 | 2005年度<br>秋学期 | 2006年度<br>春学期 | 2006年度<br>秋学期 | 2007年度<br>春学期 | 2007年度<br>秋学期 | 2008年度<br>春学期 | 2008年度<br>秋学期 |
|------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 設問10 | 3.6           | 3.7           | 3.7           | 3.8           | 3.9           | 4.0           | 3.9           | 4.1           |
| 設問11 | 3.4           | 3.5           | 3.6           | 3.7           | 3.7           | 3.9           | 3.8           | 3.9           |
|      | 2009年度<br>春学期 | 2009年度<br>秋学期 |               |               |               |               |               |               |
| 設問10 | 3.9           | 4.1           |               |               |               |               |               |               |
| 設問11 | 3.8           | 4.0           |               |               |               |               |               |               |

設問10「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」については、前回の3.9ポイントから4.1ポイントに、設問11「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」については、前回の3.8ポイントから4.0ポイントに回復している。

ただし、この2つの設問は、全体の最も評点の低い2つである点に注意しなければならない。設問10については、後述の教員の担当科目自己評価表と合わせて検証し、改善策を検討、実施することが考えられる。なお、この場合、授業で与えられる課題の量とのバランスに留意する必要がある。

設問11「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」については、教員が参考文献などを授業の中で紹介したり、レポートや課題を課す際に文献にあたる指導をしたりすることなども考慮すべきであると思われる。

### ④ 授業の全般的評価

「授業の全般的評価」を問う設問12「この授業を受けることで分析能力がついたと思いますか」、設問13「この授業は全般的に満足のいくものでしたか」、および設問14「この授業は将来の学習にとって有意義なものでしたか」は、授業に対する評価の結論的指標となるものである。今回は、いずれの設問についても、0.1～0.2ポイント上昇しており、設問13と設問14は、総平均値以上のポイントであるが、設問12はそれよりも低いものとなっている。

したがって、特に、設問12については、担当教員の授業方法のさらなる改善を期待したいされる。後述の教員の担当科目自己評価表と合わせて検討するとともに、FD活動において取り上げるべき課題の1つと言えよう。

言うまでもなく、「授業の全般的評価」への取り組みは継続的なカイゼン活動である。授業内容はもとより、「学生の取り組み」に対する教員の対応も重要な要素である点に留意すべきである。

### ⑤ クロス集計分析

前回より、設問と設問との相関関係を見るクロス分析をすることになった。第V章の中にある「2009年度春学期アンケート集計結果(コース別)」の「会計専門職専攻会計専門職」を見ていただきたい。その表の1番左端に、設問13「この授業は全般的に満足のものでしたか。」と他の13設問との相関係数が記載されている。

相関係数は、設問14「この授業は将来の学習にとって有意義なものでしたか」の0.884が最も高く、設問8「授業の内容と時間配分は適正なものでしたか」の0.681、設問2「教員は十分に準備して授業に臨んでいましたか」の0.653、設問6「教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか」の0.647となっている。これらのことは、授業内容の理解度を高めることの重要性を改めて示唆するものであろう。

## B. 担当教員による担当科目自己評価表

### (1) 概要

教員の担当科目自己評価表においては、①この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか、②この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか、③この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか、という設問について、担当教員が回答するものである。

### (2) 各質問項目の回答傾向

ここでは科目区分毎の回答傾向を提示しているが、公認会計士養成プログラム、企業経理財務担当者養成プログラム、自治体会計・行政経営専門職養成プログラムかどうかで、その達成目標は自ずと異なることから、下記はこのような点も反映された回答といえる。

① 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたこと」を問う設問1に関して、コア科目については、担当科目に関する「基礎的な知識の修得」・「体系的な理解」・「全体像の理解」・「総合的な理解」・「簿記一巡と手続きと取引の一連の流れを意識した講義」など基礎的知識の体系的・総合的な理解を目的とする回答と、「講義と演習とのバランスを図る」・「問題を解く時間の確保」・「計算能力の向上」・「計算方法の解説」といった演習・計算能力の向上を目的とする回答がみられた。また、「法律の勉強の方法をマスターしてもらう」・「理論の解説と実務の例示が適度に調和した講義」・「関連ベーシック／アドバンスト科目への道筋を示すこと」などの回答も見られた。

ベーシック科目については、具体的な論点や重点項目な具体的な講義内容を挙げた回答が多かった。また、「平易な解説」・「理解しやすい形で講義」・「科目に興味をもってもらえるようにする」・「受験へのモチベーションを高める」・「インタラクティブな授業の実施」・「事例による解説」・「質問が出やすいような雰囲気をつくること」・「制度趣旨の説明に力点をおいた」といった講義方法や講義手法に関する回答や、「簿記の問題を迅速かつ正確にとける能力を培うこと」・「論文式の論述力が身につくようにすること」・「論理的思考が明確にできるような授業」といった学生に身につけさせたい能力にふれた回答もみられた。

アドバンスト科目については、それぞれの科目の主要テーマの重要性を理解させるという回答が多くみられた。また、「多くの事例を紹介」・「実践的活用ができるようにすること」・「考え方のフレームワークを提供」・「考え方の理解」・「基礎的な概念の網羅的理解」・「楽しく学んでもらうこと」など講義の内容や進め方など多彩な回答が見られた。さらに、「課題研究論文の執筆ができるようにすること」・「受講生に自分で考え、問題を発見し、答えを導き出す力をつけてもらうようにした」・「条文のあてはめ、論理の展開など解釈能力や洞察力を高めるようにした」・「有価証券報告書の内容の把握と読み方の習得」・「試験に求められる論理構

成力、判断力、応用力」など、履修者に身につけてもらいたい能力を挙げた回答も見られた。そのほかにも「パワーポイント画面の準備」といった教員自身の授業方法に関する回答も見られた。

② 「担当科目について実施してよかった点」を問う設問 2-1 に関して、コア科目については、「小テストの実施」・「小テストの範囲を予め明示した」・「講義資料を事前にダウンロードしてもらい予習に役立てた」・「レジュメの事前配布」・「毎回課題を課す」・「レポートの提出」・「事前課題を課す」・「多数の演習問題の実施」・「関連書籍の紹介」・「テキストを作成した」といった回答が見られた。

ベーシック科目については、「小テストの実施」・「演習問題の多用」・「グループ・ディスカッション」・「クラス・ディスカッション」・「実務上の問題点を話した」・「客員教授による講演を1こま入れた」といった回答がみられた。

アドバンスト科目については、「学生が分析したい企業についてレポートを実施」・「論文作成のノウハウについて解説資料を配布したり、タイムテーブルを示した」・「補足資料としてレジュメを配布した」・「計算の設例を取り入れて説明を行った」・「小テストの実施」・「学生に実際のデータの収集、編集、評価の作業を行わせ、実務としての管理会計的な計算手法を身につけさせた」・「発表のとき、詳細なレジュメを準備してもらった」・「必ず計算演習時間をとって演習してもらうこと」・「豊富に事例を紹介して、理解のレベルを上げる工夫をした」・「毎回毎回の復習を簡単に行うように努めた」・「システム監査のロールプレイングを実施した」・「網羅的なテキストを輪読していった」・「テキストに示されている解答について、なぜそうなるのか考え、基本に立ち返り、理解していることを前提とせずに確認する」・「毎回、次週の講義の資料を配布して予習に役立ててもらった」といった多彩な回答がみられた。

③ 「担当科目について改善・工夫した方がよい点」を問う設問 2-2 に関して、コア科目については、「学生との双方向の場をほとんど設定できなかった」・「総合問題のモデル問題の作成」・「予習・復習が全くたりない学生に対する対応策」・「もう少し考える力を身につけるように講義を行うこと」・「事例を取り入れること」・「講義時間との関係で質問時間があまりとれない」・「もっと事例を紹介したいのだが、時間との関係でとれない」・「他の科目とのリンクを強化することで履修者の学習をもっと効率的なものにすべき」・「質問を受けすぎて、説明が少なくなった箇所があった」・「板書を分かりやすく行うことができるか、より一層確認する方がよい」といった回答が見られた。

ベーシック科目については、約25パーセントの教員が「特になし」と書いている。また、「文章を図解するなど、イメージによる理解が促進されるようにする」・「受講生の理解度に合わせて講義を行う」・「時間がタイトになったこと、もう少し内容を絞る必要があるかもしれない」・「小テストの実施を考えるべき」・「課題演習の作業のための時間配分をもう少し増やす方がよいかもしれない」・「授業内容をレポートにつなげるための工夫をしてみたい」・「板書の仕方、レジュメやパワーポイントの方法」・「学生と教員の双方向のコミュニケーションを活発にする方法」・「学生とのコミュニケーションを増やす」・「授業連絡ボードにアップして予習を促した方がよいかもしれない」・「他説の理論展開にもふれられるようにしたい」・「レジュメを講義よりもさらに数日早く公開すること」・「必要な文献をリストアップする必要があったかもしれない」といった回答がみられた。

アドバンスト科目についても、約3割の学生が「特になし」と書いている。また、「取り上げる箇所をもっと絞って行うこと」・「ディスカッションの時間を多くとること」・「論文執筆に着手する時間をもう少し早くする必要がある」・「事例について収集したい」・「練習問題を宿題として毎回提出されること」・「質問しやすい雰囲気をつくること」・「レジュメの工夫」・「演習に充てる時間が短すぎた」・「リサーチにかかる時間がとれるような授業日程をとる」・「宿題・レポートの量が多すぎた」・「質問を受ける時間を確保した方がよい」・「演習中

心であったが、もっと講義を入れた方がよいかもしれない。」といった回答がみられた。

④ 「講義目標の達成度」を問う設問3に関しては、「達成できた」、「おおむね達成できた」との回答が大半であった。ただし、「達成できましたが、受講生の理解度には個人差があります」・「ほぼ達成できたが、計算問題の時間をもう少しとれたらと思う」・「達成できたと思うが、学生の理解度にかなり差があったように思う」「達成できていない」などの回答も見られた。

### (3) 自己評価表の全体的傾向

会計専門職専攻教員の担当科目自己評価表から整理できる全体的な傾向としては、以下の点である。

① 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたこと」に関しては、担当科目の科目区分（コア・ベーシック・アドバンスト）を踏まえて、担当科目に関する基礎的知識の習得、体系的な理解、論理的思考や論文作成力などの養成等が設定されており、総じて、担当教員が科目区分、プログラム、そして科目の性質（課題研究・詳説、事例研究、自治体関係）を踏まえて講義に望んでいるものと思われる。

ただし、当該設問は、教員が目指す目標であると同時に学生が講義を通じて達成すべき到達点を示し、また講義に臨む姿勢などを示す部分でもある。そして、「講義目標の達成度」と関連しているものであるため、記述は具体的であることが望ましい。

② 「実施して良かった点」に関しては、小テストの実施が各科目群を通じて多いことは、学生の講義内容の理解度の確認とこれを通じた講義内容の改善に有用であることを示唆するものである。もちろん、レポートの提出、事前課題の提示、事後課題の賦課等の方法と合わせて、講義内容の理解を促す方法について、継続して実施・改善することが必要である。

③ 「改善・工夫した方が良い点」に関しては、講義の時間配分、学生の質問時間等の確保、資料の改善、事例の活用、小テストの実施といった回答が大勢といえ、これがあると認識している教員においては、早期に実施すべきことが要請される。なお、ベーシック科目においては、基礎知識の乏しい学生や学習時間の足りない学生に対するフォローアップを挙げる回答があったことを付記しておく。

④ 「改善・工夫した方が良い点」に関して「特になし」と回答した教員、そして、「講義目標の達成度」に関して達成できた、おおむね達成できたとの回答をした教員においても、学生による授業評価アンケートと試験結果とを踏まえて、自己評価表を見直すことが要請される。

## 6. まとめと残された問題

学生による授業評価アンケートと担当教員による授業自己評価アンケートは、2005年度経営戦略研究科開設から実施していたが、2009年度春学期においてアンケート用紙の構成を変更し、あわせて若干の質問項目の整理を行った。ただし、各アンケートの質問に対する回答結果の時系列の観察は可能となっている。これにより、本報告においても、アンケート結果の時系列の評価を多く取り入れた分析を実施している。

また、国際経営コースについては、質問言語等の問題から2008年度まではコース独自のアンケート用紙を用いて学生による授業評価をおこなっていたところであるが、2009年度春学期からは経営戦略研究科統一のアンケート用紙を用いて実施しており、企業経営戦略コースとの比較も可能となっている。

本報告では、受講生の総合的な満足尺度ともいえる「この授業は全般的に満足のいくものでしたか」という質問と他の質問について、相関係数を算出して分析を試みている。

教員による授業自己評価アンケートは、自由記述形式となっており、授業担当者自らによる

授業実施上の努力と評価が記載されている。

今後とも経営戦略研究科として、アンケート分析を活用し、専攻の違いを踏まえた具体的な活動への示唆へとりまとめていく必要があると考えられる。

### (1) 経営戦略専攻企業経営戦略コース

学生による授業評価アンケートについての今回の評価結果は、概して高い水準を保っていると考えられる。例年と同じく、「学生自身の取り組み」については低い平均値(4.02)となる一方で「教員の授業内容と方法(平均 4.45)」および「授業に対する満足度(平均 4.28)」に対する評価は比較的高いものであった。

経年変化を見ると、「教員の授業内容と方法(設問 1～設問 9)」および「授業に対する満足度(設問 12～設問 14)」に関しては 2008 年秋学期と 2009 年度春学期の中間に位置し、「学生自身の取り組み(設問 10～設問 11)」については過去最高の結果となっている。

設問 13「この授業は全体的に満足いくものでしたか」との相関分析からは、企業経営戦略コースの学生は仕事に役立つ講義に対して高い満足度を示す事や分析能力や批判力が養われる科目に対して高い満足度を示すことが推察される。また、学生の満足度を高めるためには、教員は十分に準備をして授業に臨むことはもとより、学生が発言したり議論したりすることを促すとともに、個々の学生の内容理解の水準にも目配りして質問に丁寧に答えることが求められる事が示唆された。

学生の満足度と相関が高い設問のうち、学生からの評価の平均点が比較的低かった設問として、設問 6「教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮していたか」の平均点が 4.2 と「教員の授業内容と方法」の設問項目中で一番低かった。多様な学歴や職歴を持ち、履修の自由度との兼ね合いで場合によっては前提となる知識を学ぶ科目の履修が済んでいないなど知識レベルが様々な学生に対して、個々の内容理解の水準を考慮して授業を進めるのは多大な困難が伴うが、それを乗り越えたとき、専門職大学院の顧客である学生の満足度が高まるのであろう。

担当教員による授業自己評価アンケートをみると「実施して良かった点」に関しては、小テスト、グループワーク、ケーススタディーの発表、レポートや小テストに対するコメント、ゲストスピーカーやビデオ教材の活用などが挙げられている。「改善・工夫した方がよい点」に関しては、受講生の多さや学生の理解のバラツキから、シラバスどおりに授業を進めることの難しさが窺われた。また、課題研究指導教員の決定法に関し現在のところ学生の希望を最重視しているが、研究テーマからすると他の教員が指導するのが適切な学生でも制限人数以内ならば引き受けなければならず結果的に指導が不適切になることもあり、学生に対して研究テーマにあった教員を選ぶようガイダンスすることが必要であるという指摘があった。今後の検討課題であろう。これらへの対応によりアンケートの評価ポイントがさらに高位に安定することが今後の課題である。

### (2) 経営戦略専攻国際経営コース

学生による授業評価結果は、前回同様、概ね良好である。いずれの質問項目の平均値も「Strongly agree」、「Agree」の中間の値となっている。国際経営コースの各科目への満足度は総じて高いといえる。特に、教師側の要因に高い評価が得られており、結果として、学生の満足が高い評価となっている。一方で、今回の調査から読み取れる大きな課題は、「分析能力・批判能力の習得」について改善の必要性が大きいという点であり、今後の改善努力を集中すべき領域であるものと考えられる。

企業経営戦略専攻と比較すると、学生の満足度との相関が高い設問 6「教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか」の国際経営コース平均値は 4.41 と企業経営戦略コースの平均値 4.20 より 0.21 ポイント高い。これは、国際経営戦略コースの方がクラスサイズが

小さく、個々の学生の理解度に応じたきめの細かい指導ができていないことを示唆するものではないだろうか。

授業担当者による自己評価アンケートでは、実施してよかった点として、学生の理解を深める方策と学生のモチベーションを高める方策の2点に触れている教員が最も多い。具体的には、ケース素材などの事例利用、ロールプレイやシミュレーションの実施、ビデオ教材の活用や、小テストの実施、教室を出てビジネスの現場を社会見学するなどである。他方、教員側からは「分析能力・批判能力の習得」に関連する施策は少なく、教員側の目標設定の修正が改善の第一歩だと考えられる。

改善・工夫をした方が良い点」としては、討議の質を深める、学生によるプレゼンテーションの機会を増やすといった各教員自身の取り組みで解決できるものから、日本の企業に関するケース素材を増やすなどの組織としての解決施策が必要なものまで、様々な改善・工夫点が挙げられている。ことに今回の授業評価アンケートでは、教育目的に合致した日本語の素材があるが著作権の関係上翻訳ができず日本語のまま授業で使用してしまったといった声も挙げられている。英語の教育素材の充実が国際経営コース全体の課題として組織的な取り組みが必要であるものと考えられる。

### (3) 会計専門職専攻

学生による授業評価アンケートについては、前回の2009年度春学期には0.2ポイント低下した。これは、約1週間にわたるインフルエンザによる休講措置の影響の可能性が考えられていた。今回は、前々回の水準に戻っており、全体として、今後ともこの水準の維持・向上が期待される。

評点が4.5ポイント未満の設問は、設問6「教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか」のみであり、前回同様、コア科目の評点が低い。コア科目は、導入教育に該当する科目が多く、講義形式で実施されることや、導入教育段階であることから学生が課題への取り組みにとりわけ負荷を感じていることも想起される。今後とも、授業の十分な準備や、適切な授業の運営、実施とともに、質問等の対応を含めた個々の学生に対する一定の配慮に関する改善に向けて、より一層の研鑽を期待したい。

「この授業は全般的に満足いくものでしたか。」の設問とクロス分析から、将来の学習にとって意義の高い内容、授業の内容と時間配分との適正化、授業に対する十分な準備、個々の学生の理解の水準を考慮した講義といった点が、学生の満足度に関係しているものと考えられる、これが会計専門職専攻の今回のアンケート結果の向上に関わっていると考えられる。

教員の自己評価アンケート中「この科目を担当するにあたって最も力を入れたこと」に関しては、担当科目の科目区分（コア・ベーシック・アドバンスト）を踏まえて、担当科目に関する基礎的知識の習得、体系的な理解、論理的思考や論文作成力などの養成等が設定されており、総じて、担当教員が科目区分、プログラム、そして科目の性質（課題研究・詳説、事例研究、自治体関係）を踏まえて講義に望んでいるものと思われる。

「実施して良かった点」に関しては、小テストの実施が各科目群を通じて多いことは、学生の講義内容の理解度の確認とこれを通じた講義内容の改善に有用であることを示唆するものである。もちろん、レポートの提出、事前課題の提示、事後課題の賦課等の方法と合わせて、講義内容の理解を促す方法について、継続して実施・改善することが必要である。

「改善・工夫した方が良い点」に関しては、講義の時間配分、学生の質問時間等の確保、資料の改善、事例の活用、小テストの実施といった回答が大勢といえ、これがあると認識している教員においては、早期に実施すべきことが要請される。なお、ベーシック科目においては、基礎知識の乏しい学生や学習時間の足りない学生に対するフォローアップを挙げる回答があったことを付記しておく。

「改善・工夫した方が良い点」に関して「特になし」と回答した教員、そして、「講義目標の達成度」に関して達成できた、おおむね達成できたとの回答をした教員においても、学生による授業評価アンケートと試験結果とを踏まえて、自己評価表を見直すことが要請される。

#### (4) 今後の課題

学生による授業に関するアンケートおよび教員の担当科目自己評価の実施を通じて、経営戦略研究科では、ビジネススクール（経営戦略専攻）およびアカウンティングスクール（会計専門職専攻）の両教育に固有の諸課題を把握し教職員間の共有を図っている。今後は、グラフの活用や国際経営コースで既に行われている科目個別データの一層わかりやすい開示、授業満足度とのクロス集計結果の一層の活用、授業評価に関する座談会結果のさらなる活用等、教員の資質向上、教育内容改善に対するモチベーションを高める施策について今後とも引き続き議論し、ビジネススクールおよびアカウンティングスクールの教育の質的向上を図っていく必要がある。

以 上

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科  
自己評価委員会

コンビナー 甲斐良隆

2009年度に開催されたFDに関する研修会は、以下のとおり。

■2009年6月17日（水）

演題：「ファイナンスの授業の狙いと進行方法」

講師：甲斐良隆 経営戦略研究科教授

■2009年7月15日（水）

演題：「課題研究の授業の狙いと進行方法」

講師：山本昭二 経営戦略研究科教授

■2009年11月25日（水）

演題：「FDに関する課題」

講師：伊豫田隆俊 甲南大学教授

■2009年12月2日（水）

演題：「国際的MBAプログラムの戦略的マネジメントに関する課題」

講師：Pierre DUSSAUGE パリ高等商業大学校教授

■2010年2月10日（水）

演題：「アメリカの大学におけるProfessorのキャリア形成、並びにFDの現状と課題」

講師：小田部正明 経営戦略研究科客員教授

■2010年2月10日（水）

演題：「企業ファイナンスの授業の内容と進め方について」

講師：岡田克彦 経営戦略研究科准教授

■2010年2月15日（月） （小田部先生をお囲みして）司会：佐藤善信

演題：「ダイキンのケースのリファインとケース・ベースト・リサーチの可能性」

講師：小高久仁子 経営戦略研究科准教授

演題：携帯電話に対する日本とマレーシアの消費者ニーズの比較分析」（使用言語は英語）

講師：ノーリア・アハマト 経営戦略研究科准教授

■2010年3月24日（水） 13時-15時

演題：“ Faculty Roles & Faculty Development in the U.S. Research University and 'Top' Business Schools”

講師：Linda Yuen-Ching Lim (Professor of Strategy)

(University of Michigan Stephen M. Ross School of Business)

以上

## 2009年度秋学期授業評価アンケート実施授業科目一覧

| 講義コード           | 科目                             | クラス | 教員        | 期間   | 曜日  | 時限  | 履修 |
|-----------------|--------------------------------|-----|-----------|------|-----|-----|----|
| 経営戦略専攻企業経営戦略コース |                                |     |           |      |     |     |    |
| 97101002        | 企業倫理                           | 2   | 宮本 又郎     | 秋前   | 木曜日 | VI  | 43 |
| 97102003        | 経営学                            | 3   | 鈴木 修      | 秋前   | 金曜日 | VI  | 8  |
| 97103002        | 会計学                            | 2   | 児島 幸治     | 秋後   | 金曜日 | VI  | 26 |
| 97104002        | 経済学                            | 2   | 新庄 浩二     | 秋前   | 土曜日 | I   | 27 |
| 97105002        | 統計学                            | 2   | 羽室 行信     | 秋後集中 | 日曜日 | 集中  | 35 |
| 97106003        | 英語コミュニケーション                    | 3   | マーク シニア   | 秋前   | 水曜日 | VI  | 20 |
| 97106004        | 英語コミュニケーション                    | 4   | マーク シニア   | 秋後   | 水曜日 | VI  | 14 |
| 97151002        | 経営戦略                           | 2   | 小高 久仁子    | 秋前   | 火曜日 | VI  | 13 |
| 97151003        | 経営戦略                           | 3   | 小高 久仁子    | 秋後   | 火曜日 | VI  | 23 |
| 97152002        | 人的資源開発                         | 2   | 大内 章子     | 秋前   | 火曜日 | VI  | 35 |
| 97153002        | マーケティング・マネジメント                 | 2   | 佐藤 善信     | 秋前   | 金曜日 | VI  | 38 |
| 97154002        | ファイナンス                         | 2   | 甲斐 良隆     | 秋前   | 土曜日 | III | 42 |
| 97155002        | 企業ファイナンス                       | 2   | 岡田 克彦     | 秋後   | 土曜日 | III | 16 |
| 97156000        | 管理会計                           |     | 宮本 寛爾     | 秋    | 冬集前 |     | 29 |
| 97157000        | 財務諸表分析                         |     | 青柳 吉宏     | 秋後   | 水曜日 | VI  | 60 |
| 97158002        | テクノロジー・マネジメント                  | 2   | 玉田 俊平太    | 秋後   | 月曜日 | VI  | 20 |
| 97159002        | 情報システム                         | 2   | 羽室 行信     | 秋前集中 | 日曜  | V   | 13 |
| 97160000        | 生産システム                         |     | 加藤 直樹     | 秋前   | 土曜日 | I   | 16 |
| 97165000        | 国際経済学                          |     | 中西 訓嗣     | 秋後   | 金曜日 | VI  | 3  |
| 97167002        | 上級英語コミュニケーション                  | 2   | ジョセフ シーハン | 秋前   | 土曜日 | III | 5  |
| 97202000        | 企業家論                           |     | 宮本 又郎     | 秋後   | 木曜日 | VI  | 24 |
| 97203000        | 組織管理(BS)                       |     | 奥林 康司     | 秋前   | 木曜日 | VI  | 15 |
| 97205000        | NPOマネジメント(BS)                  |     | 太田 康嗣     | 秋後   | 木曜日 | VI  | 7  |
| 97206000        | 事業システム戦略論                      |     | 金井 一頼     | 秋前   | 木曜日 | VI  | 29 |
| 97209000        | サービス・マーケティング                   |     | 山本 昭二     | 秋後   | 火曜日 | VI  | 19 |
| 97211000        | ブランド・マネジメント                    |     | 梅本 春夫     | 秋後   | 土曜日 | VI  | 33 |
| 97212001        | マーケティング・コミュニケーション              | 1   | 梅本 春夫     | 秋後   | 土曜日 | III | 18 |
| 97212002        | マーケティング・コミュニケーション              | 2   | 梅本 春夫     | 秋    | 冬集前 |     | 19 |
| 97215000        | 消費者行動                          |     | 徳山 美津恵    | 秋後   | 土曜日 | I   | 21 |
| 97216000        | ロジスティクス                        |     | 伊藤 秀和     | 秋前   | 月曜日 | VI  | 13 |
| 97217000        | 国際マーケティング                      |     | 藤沢 武史     | 秋後   | 月曜日 | VI  | 4  |
| 97218000        | マーケティング・リサーチ                   |     | 中西 正雄     | 秋後   | 水曜日 | VI  | 21 |
| 97220000        | 金融論                            |     | 久保田 哲夫    | 秋前   | 月曜日 | VI  | 8  |
| 97224000        | 金融商品                           |     | 甲斐 良隆     | 秋後   | 金曜日 | VI  | 17 |
| 97225000        | コーポレート・リストラクチャリング              |     | 平木 多賀人    | 秋前   | 土曜日 | VI  | 15 |
| 97226000        | リスクマネジメント                      |     | ジョン ホング   | 秋後   | 火曜日 | VI  | 14 |
| 97228000        | 金融商品取引法                        |     | 小林 章博     | 秋前   | 水曜日 | VI  | 15 |
| 97230000        | イノベーション経営                      |     | 玉田 俊平太    | 秋前集中 | 日曜  | V   | 19 |
| 97231000        | 製品開発                           |     | 澤ノ井 誠     | 秋前   | 土曜日 | III | 25 |
| 97233002        | 製品開発事例研究                       | 2   | 澤ノ井 誠     | 秋後   | 土曜日 | III | 8  |
| 97235000        | eビジネス事例研究                      |     | 吉田 雅紀     | 秋    | 冬集前 |     | 44 |
| 97236000        | 起業家マインド                        |     | 吉田 雅紀     | 秋後   | 月曜日 | VI  | 12 |
| 97237000        | ベンチャービジネス事例研究                  |     | 吉田 雅紀     | 秋後   | 土曜日 | I   | 13 |
| 97239000        | コストマネジメント                      |     | 窪田 祐一     | 秋前   | 水曜日 | VI  | 12 |
| 97245001        | 課題研究基礎                         | 1   | 山本 昭二     | 秋    | 冬集後 |     | 11 |
| 97245003        | 課題研究基礎                         | 3   | 定藤 繁樹     | 秋前   | 土曜日 | III | 6  |
| 97245005        | 課題研究基礎                         | 5   | 佐藤 善信     | 秋後集中 | 日曜日 | 集中  | 11 |
| 97245006        | 課題研究基礎                         | 6   | 甲斐 良隆     | 秋    | 冬集後 |     | 15 |
| 97245008        | 課題研究基礎                         | 8   | 小高 久仁子    | 秋    | 冬集前 |     | 7  |
| 97245009        | 課題研究基礎                         | 9   | 大内 章子     | 秋後   | 土曜日 | III | 10 |
| 97246002        | 課題研究                           | 2   | 宮本 又郎     | 秋学期  | 土曜日 | I   | 7  |
| 97246004        | 課題研究                           | 4   | 小高 久仁子    | 秋学期  | 土曜日 | I   | 7  |
| 97246006        | 課題研究                           | 6   | 佐藤 善信     | 秋    | 日曜日 | III | 8  |
| 97246008        | 課題研究                           | 8   | 山本 昭二     | 秋学期  | 土曜日 | I   | 9  |
| 97246010        | 課題研究                           | 10  | 甲斐 良隆     | 秋学期  | 土曜日 | I   | 6  |
| 97246012        | 課題研究                           | 12  | 大内 章子     | 秋学期  | 土曜日 | I   | 9  |
| 97246014        | 課題研究                           | 14  | 岡田 克彦     | 秋    | 日曜日 | III | 4  |
| 97246016        | 課題研究                           | 16  | 定藤 繁樹     | 秋学期  | 土曜日 | I   | 4  |
| 97246018        | 課題研究                           | 18  | 玉田 俊平太    | 秋    | 日曜日 | III | 2  |
| 97246020        | 課題研究                           | 20  | 羽室 行信     | 秋    | 日曜日 | III | 5  |
| 経営戦略専攻国際経営コース   |                                |     |           |      |     |     |    |
| 97301002        | Business Ethics                | 2   | 石田 寛      | 秋前集中 | 月曜日 | I   | 1  |
| 97302002        | Management                     | 2   | 鈴木 修      | 秋前   | 木曜日 | IV  | 6  |
| 97303002        | Accounting for Decision Making | 2   | 児島 幸治     | 秋前   | 水曜日 | I   | 11 |
| 97304002        | Business Economics             | 2   | 前田 祐治     | 秋後   | 月曜日 | II  | 8  |
| 97305002        | Statistics                     | 2   | 前田 祐治     | 秋前   | 火曜日 | III | 10 |
| 97306002        | English Communication          | 2   | マーク シニア   | 秋前   | 水曜日 | III | 6  |

| 講義コード    | 科目                                     | クラス | 教員          | 期間  | 曜日  | 時限 | 履修 |
|----------|--|-----|-------------|-----|-----|----|----|
| 97351000 | Making Ethical Decisions               |     | デヴィッド メッセイ  | 秋後  | 月曜日 | Ⅲ  | 8  |
| 97352000 | Corporate Strategy                     |     | デヴィッド メッセイ  | 秋前  | 木曜日 | Ⅳ  | 10 |
| 97353000 | Designing Organizational Systems       |     | 鈴木 修        | 秋後  | 火曜日 | Ⅳ  | 7  |
| 97354002 | International Management               | 2   | デヴィッド メッセイ  | 秋前  | 木曜日 | Ⅰ  | 3  |
| 97355000 | Leadership and Corporate Renewal       |     | デヴィッド メッセイ  | 秋後  | 月曜日 | Ⅴ  | 5  |
| 97356002 | Marketing Management                   | 2   | ノーリア アハマド   | 秋前  | 木曜日 | Ⅱ  | 4  |
| 97357000 | Marketing Strategy                     |     | 佐藤 善信       | 秋後  | 火曜日 | Ⅲ  | 10 |
| 97358002 | Principles of Finance                  | 2   | 前田 祐治       | 秋前  | 火曜日 | Ⅴ  | 8  |
| 97359002 | Corporate Finance                      | 2   | 平木 多賀人      | 秋後  | 金曜日 | Ⅰ  | 5  |
| 97360000 | Financial Reporting and Analysis       |     | 梶島 幸治       | 秋後  | 水曜日 | Ⅰ  | 10 |
| 97363000 | Advanced English for Business Practice |     | ジョセフ シーハン   | 秋後  | 土曜日 | Ⅲ  | 4  |
| 97407000 | Marketing Case Analysis                |     | ノーリア アハマド   | 秋後  | 月曜日 | Ⅲ  | 3  |
| 97409002 | International Marketing Practice       | 2   | M. J. グルーベル | 秋前  | 火曜日 | Ⅱ  | 8  |
| 97410000 | Brand Management                       |     | 北村 秀実       | 秋   | 冬集前 |    | 7  |
| 97411000 | Marketing Communication                |     | 北村 秀実       | 秋後  | 金曜日 | Ⅳ  | 6  |
| 97412000 | Financial Risk Management              |     | 前田 祐治       | 秋後  | 月曜日 | Ⅰ  | 4  |
| 97416000 | Portfolio Management                   |     | 平木 多賀人      | 秋前  | 火曜日 | Ⅰ  | 3  |
| 97417000 | Corporate Restructuring                |     | 平木 多賀人      | 秋後  | 火曜日 | Ⅲ  | 4  |
| 97418000 | International Accounting               |     | 梶原 晃        | 秋後  | 土曜日 | Ⅰ  | 8  |
| 97420000 | Management Information Systems         |     | 宗平 順己       | 秋前  | 土曜日 | Ⅰ  | 9  |
| 97421000 | Industrial Organization                |     | 土井 教之       | 秋前  | 木曜日 | Ⅴ  | 4  |
| 97429004 | Group Research Project                 | 4   | 鈴木 修        | 秋前  | 木曜日 | Ⅰ  | 8  |
| 97429005 | Group Research Project                 | 5   | ノーリア アハマド   | 秋後  | 木曜日 | Ⅰ  | 5  |
| 97430002 | Individual Research                    | 2   | デヴィッド メッセイ  | 秋学期 | 水曜日 | Ⅰ  | 1  |
| 97430004 | Individual Research                    | 4   | ジョン ホング     | 秋学期 | 水曜日 | Ⅰ  | 2  |
| 97430008 | Individual Research                    | 8   | 中西 正雄       | 秋学期 | 水曜日 | Ⅲ  | 1  |
| 97430010 | Individual Research                    | 10  | 鈴木 修        | 秋学期 | 水曜日 | Ⅰ  | 3  |
|          | 会計専門職専攻                                |     |             |     |     |    |    |
| 97203000 | 組織管理(AS)                               |     | 奥林 康司       | 秋前  | 木曜日 | Ⅵ  | 1  |
| 97205000 | NPOマネジメント(AS)                          |     | 太田 康嗣       | 秋後  | 木曜日 | Ⅵ  | 4  |
| 97511003 | 国際会計論                                  | 3   | 杉本 徳栄       | 秋前  | 土曜日 | Ⅲ  | 11 |
| 97511004 | 国際会計論                                  | 4   | 杉本 徳栄       | 秋後  | 火曜日 | Ⅰ  | 5  |
| 97513002 | 簿記基礎                                   | 2   | 小市 裕之       | 秋前  | 土曜日 | Ⅰ  | 17 |
| 97514003 | 簿記                                     | 3   | 中島 稔哲       | 秋前  | 火曜日 | Ⅰ  | 10 |
| 97514004 | 簿記                                     | 4   | 中島 稔哲       | 秋後  | 土曜日 | Ⅲ  | 17 |
| 97515002 | 財務会計基礎                                 | 2   | 杉本 徳栄       | 秋前  | 土曜日 | Ⅰ  | 13 |
| 97516003 | 財務会計論                                  | 3   | 山地 範明       | 秋前  | 月曜日 | Ⅰ  | 12 |
| 97516004 | 財務会計論                                  | 4   | 山地 範明       | 秋後  | 土曜日 | Ⅰ  | 19 |
| 97531002 | 管理会計基礎                                 | 2   | 徳崎 進        | 秋前  | 火曜日 | Ⅵ  | 11 |
| 97532003 | 管理会計論                                  | 3   | 浜田 和樹       | 秋前  | 月曜日 | Ⅲ  | 18 |
| 97532004 | 管理会計論                                  | 4   | 浜田 和樹       | 秋後  | 土曜日 | Ⅴ  | 17 |
| 97533002 | 原価計算基礎                                 | 2   | 稲澤 克祐       | 秋前  | 土曜日 | Ⅲ  | 20 |
| 97534003 | 原価計算論                                  | 3   | 徳崎 進        | 秋前  | 金曜日 | Ⅰ  | 11 |
| 97534004 | 原価計算論                                  | 4   | 徳崎 進        | 秋後  | 土曜日 | Ⅲ  | 22 |
| 97551003 | 会計倫理                                   | 3   | 西尾 宇一郎      | 秋前  | 土曜日 | Ⅲ  | 11 |
| 97551004 | 会計倫理                                   | 4   | 西尾 宇一郎      | 秋後  | 木曜日 | Ⅰ  | 6  |
| 97552003 | 監査論                                    | 3   | 上田 耕治       | 秋前  | 木曜日 | Ⅰ  | 16 |
| 97552004 | 監査論                                    | 4   | 上田 耕治       | 秋後  | 土曜日 | Ⅰ  | 12 |
| 97562003 | 経営学                                    | 3   | 加藤 雄士       | 秋前  | 木曜日 | Ⅲ  | 18 |
| 97562004 | 経営学                                    | 4   | 加藤 雄士       | 秋後  | 土曜日 | Ⅰ  | 8  |
| 97581003 | 企業法                                    | 3   | 岡本 智英子      | 秋前  | 土曜日 | Ⅰ  | 7  |
| 97581004 | 企業法                                    | 4   | 岡本 智英子      | 秋後  | 金曜日 | Ⅰ  | 5  |
| 97582002 | 租税法基礎                                  | 2   | 西尾 宇一郎      | 秋前  | 土曜日 | Ⅴ  | 41 |
| 97583002 | 法人税法                                   | 2   | 西尾 宇一郎      | 秋後  | 木曜日 | Ⅵ  | 25 |
| 97584000 | 地方税法基礎                                 |     | 横山 直子       | 秋後  | 土曜日 | Ⅰ  | 14 |
| 97611002 | 簿記応用                                   | 2   | 杉本 徳栄       | 秋前  | 火曜日 | Ⅲ  | 14 |
| 97612002 | 会計基準論                                  | 2   | 中島 稔哲       | 秋後  | 火曜日 | Ⅵ  | 7  |
| 97613002 | 国際会計基準論                                | 2   | 杉本 徳栄       | 秋後  | 金曜日 | Ⅵ  | 27 |
| 97614002 | 連結財務諸表論                                | 2   | 山地 範明       | 秋後  | 木曜日 | Ⅲ  | 8  |
| 97615002 | 会計制度論                                  | 2   | 吉川 郁夫       | 秋前  | 木曜日 | Ⅵ  | 32 |
| 97616002 | 国際公会計論                                 | 2   | 稲澤 克祐       | 秋   | 冬集前 |    | 16 |
| 97619002 | 公会計論                                   | 2   | 稲澤 克祐       | 秋前  | 火曜日 | Ⅵ  | 6  |
| 97632000 | コストマネジメント                              |     | 玉置 求己       | 秋   | 冬集前 |    | 26 |
| 97633002 | 財務分析                                   | 2   | 井上 浩一       | 秋前  | 金曜日 | Ⅵ  | 12 |
| 97651002 | 監査制度論                                  | 2   | 上田 耕治       | 秋後  | 月曜日 | Ⅰ  | 11 |
| 97651500 | 監査概念論                                  |     | 林 隆敏        | 秋後  | 木曜日 | Ⅲ  | 9  |
| 97652002 | 監査基準論                                  | 2   | 野呂 貴生       | 秋後  | 土曜日 | Ⅴ  | 16 |
| 97653002 | 国際監査論                                  | 2   | 吉川 郁夫       | 秋後  | 土曜日 | Ⅲ  | 20 |
| 97662002 | 財政学                                    | 2   | 稲澤 克祐       | 秋   | 冬集前 |    | 23 |
| 97664000 | ファイナンス                                 |     | 甲斐 良隆       | 秋後  | 金曜日 | Ⅲ  | 15 |

| 講義コード    | 科目            | クラス | 教員      | 期間  | 曜日  | 時限 | 履修 |
|----------|---------------|-----|---------|-----|-----|----|----|
| 97665002 | 経営管理論         | 2   | 加藤 雄士   | 秋前  | 土曜日 | Ⅲ  | 10 |
| 97667002 | 経営財務論         | 2   | 徳崎 進    | 秋後  | 金曜日 | Ⅲ  | 1  |
| 97668002 | ビジネスコミュニケーション | 2   | マーク シニア | 秋後  | 水曜日 | Ⅲ  | 2  |
| 97682002 | 商法            | 2   | 池島 真策   | 秋後  | 火曜日 | Ⅵ  | 9  |
| 97683002 | 会社法           | 2   | 岡本 智英子  | 秋後  | 火曜日 | Ⅲ  | 3  |
| 97685002 | 金融商品取引法       | 2   | 田中 庸介   | 秋前  | 土曜日 | Ⅴ  | 24 |
| 97686002 | 所得税法・消費税法     | 2   | 井村 登    | 秋後  | 月曜日 | Ⅵ  | 24 |
| 97711002 | 簿記実践          | 2   | 玉山 慶幸   | 秋前  | 水曜日 | Ⅵ  | 20 |
| 97711500 | 英文会計          |     | 前原 啓二   | 秋後  | 水曜日 | Ⅵ  | 24 |
| 97715000 | 地方自治体財務会計論    |     | 石原 俊彦   | 秋後  | 土曜日 | Ⅲ  | 8  |
| 97715500 | 地方公営企業会計論     |     | 石原 俊彦   | 秋   | 冬集前 |    | 14 |
| 97718502 | 財務会計課題研究      | 2   | 山地 範明   | 秋学期 | 月曜日 | Ⅵ  | 3  |
| 97719000 | 公会計課題研究       |     | 稲澤 克祐   | 秋学期 | 土曜日 | Ⅰ  | 3  |
| 97721000 | 企業内容開示論       |     | 上田 耕治   | 秋後  | 土曜日 | Ⅲ  | 5  |
| 97722000 | ビジネス会計論       |     | 山地 範明   | 秋前  | 木曜日 | Ⅵ  | 13 |
| 97731002 | 意思決定会計論       | 2   | 浜田 和樹   | 秋前  | 土曜日 | Ⅰ  | 32 |
| 97731502 | 業績評価会計論       | 2   | 浜田 和樹   | 秋後  | 土曜日 | Ⅰ  | 18 |
| 97734000 | 地方自治体管理会計論    |     | 石原 俊彦   | 秋後  | 土曜日 | Ⅴ  | 9  |
| 97735500 | 地方自治体財務分析     |     | 石原 俊彦   | 秋前  | 土曜日 | Ⅲ  | 6  |
| 97736000 | 管理会計課題研究      |     | 浜田 和樹   | 秋学期 | 木曜日 | Ⅵ  | 3  |
| 97736500 | 原価計算課題研究      |     | 玉置 求己   | 秋学期 | 土曜日 | Ⅲ  | 7  |
| 97751502 | 内部統制論         | 2   | 吉川 郁夫   | 秋   | 冬集前 |    | 45 |
| 97752500 | システム監査        |     | 木村 安寿   | 秋前  | 土曜日 | Ⅲ  | 18 |
| 97752902 | 内部監査論         | 2   | 吉川 郁夫   | 秋前  | 月曜日 | Ⅵ  | 32 |
| 97754500 | 行政評価論         |     | 稲澤 克祐   | 秋後  | 土曜日 | Ⅲ  | 8  |
| 97761000 | 地方財政論         |     | 稲澤 克祐   | 秋後  | 火曜日 | Ⅵ  | 11 |
| 97761502 | 経済学詳説         | 2   | 三木 潤一   | 秋後  | 月曜日 | Ⅲ  | 1  |
| 97763000 | 経営戦略          |     | 上野 恭裕   | 秋後  | 金曜日 | Ⅵ  | 4  |
| 97765000 | コーポレート・ガバナンス  |     | 石田 秀樹   | 秋後  | 水曜日 | Ⅵ  | 14 |
| 97766500 | 地方自治体ファイナンス   |     | 石原 俊彦   | 秋前  | 月曜日 | Ⅵ  | 4  |
| 97767500 | 地方自治体マーケティング  |     | 武久 顕也   | 秋   | 冬集後 |    | 8  |
| 97769500 | 海外行政経営事情      |     | 武久 顕也   | 秋   | 冬集前 |    | 2  |
| 97770000 | 地方自治体人材開発論    |     | 加藤 雄士   | 秋前  | 土曜日 | Ⅴ  | 2  |
| 97783502 | 企業法要説         | 2   | 朝沼 晃    | 秋前  | 水曜日 | Ⅵ  | 9  |
| 97783503 | 企業法要説         | 3   | 朝沼 晃    | 秋後  | 水曜日 | Ⅲ  | 6  |
| 97784502 | 税務申告実務        | 2   | 井上 正信   | 秋後  | 土曜日 | Ⅴ  | 5  |
| 97785500 | 租税法課題研究       |     | 西尾 宇一郎  | 秋学期 | 月曜日 | Ⅵ  | 7  |
| 97787502 | 租税法事例研究       | 2   | 瀬戸口 有雄  | 秋前  | 金曜日 | Ⅵ  | 5  |
| 97788000 | 会社法事例研究       |     | 池島 真策   | 秋前  | 火曜日 | Ⅵ  | 1  |

# 授業評価 アンケート回答用紙

このアンケートは、授業をより充実させるための資料として教育改善を図ることを目的として実施します。  
この調査回答があなたの成績に影響することはありません。率直に、かつ責任ある回答をしてください。

**記入上の注意**

1. 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

**マーク例**



|      |    |
|------|----|
| 科目名  |    |
| 担当者名 |    |
| クラス  | 曜日 |

|         |            |             |            |             |         |
|---------|------------|-------------|------------|-------------|---------|
| 学年      | ① 1年       | ② 2年        | ③ それ以上     |             |         |
| 所属専攻    | ① 経営戦略     | ② 会計専門職     | ③ その他      |             |         |
| 出身学部    | ① 商・経済・経営系 | ② その他の社会科学系 | ③ 人文系      | ④ 理系        | ⑤ その他   |
| 実務経験年数  | ① なし       | ② 3年未満      | ③ 3年以上7年未満 | ④ 7年以上20年未満 | ⑤ 20年以上 |
| 公認会計士試験 | ① 受験予定     | ② 受験しない     |            |             |         |

**記述評価項目**

a) この授業で良かったところを具体的に書いてください。

.....

.....

b) この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください。

.....

.....

c) この授業に関してほかに気づいたことがあれば書いてください。

.....

.....

|  | ⑤<br>そう思う | ④<br>だいたい<br>そう思う | ③<br>どちらとも<br>言えない | ②<br>あまりそう<br>思わない | ①<br>そう<br>思わない | ①<br>該当<br>しない |
|--|-----------|-------------------|--------------------|--------------------|-----------------|----------------|
| 設問 1 授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか。    | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |
| 設問 2 教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか。             | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |
| 設問 3 教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか。   | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |
| 設問 4 授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか。  | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |
| 設問 5 教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を払いましたか。    | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |
| 設問 6 教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。        | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |
| 設問 7 この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。           | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |
| 設問 8 授業の内容と時間配分は適正なものでしたか。               | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |
| 設問 9 教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか。               | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |
| 設問 10 この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか。      | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |
| 設問 11 この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか。 | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |
| 設問 12 この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか。     | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |
| 設問 13 この授業は全般的に満足のいくものでしたか。              | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |
| 設問 14 この授業は仕事に役立ちましたか。                   | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |
| 設問 15                                    | ⑤         | ④                 | ③                  | ②                  | ①               | ①              |

# Class Evaluation questionnaire sheet

This evaluation is conducted for the purpose of educational development to improve the course. This survey will not affect your grades. Please be honest and considerate in your answers.

- Notes**
1. Use HB pencil or mechanical pencil.
  2. Erase errors clearly with an eraser.
  3. Do not fold or damage the sheet.

**Example**



|                     |            |
|---------------------|------------|
| <b>Course title</b> |            |
| <b>Instructor</b>   |            |
| <b>Class</b>        | <b>Day</b> |

|                                |   |  |                                   |
|--------------------------------|---|--|-----------------------------------|
| <b>Year</b>                    | <input type="radio"/> ① First                         | <input type="radio"/> ② Second               | <input type="radio"/> ③ Third     |
| <b>School</b>                  | <input type="radio"/> ① BS                            | <input type="radio"/> ② AS                   | <input type="radio"/> ③ Other     |
| <b>Undergrad major</b>         | <input type="radio"/> ① Commerce/Economics/Management | <input type="radio"/> ② Other Social Science | <input type="radio"/> ⑤ Other     |
|                                | <input type="radio"/> ③ Humanities                    | <input type="radio"/> ④ Science/Engineering  |                                   |
| <b>Career</b>                  | <input type="radio"/> ① None                          | <input type="radio"/> ② Less than 3 years    | <input type="radio"/> ③ 3-7 years |
|                                | <input type="radio"/> ④ 7-20 years                    | <input type="radio"/> ⑤ More than 20 year    |                                   |
| <b>Will you take CPA exam?</b> | <input type="radio"/> ① Yes                           | <input type="radio"/> ② No                   |                                   |

**Description**

a) Describe good points of the course in detail.

.....

.....

b) Describe your suggestions in detail for further improving the course.

.....

.....

c) Describe any further comments you have concerning the course.

.....

.....

|  | Strongly agree | Agree | Neutral | Disagree | Strongly disagree | No answer |
|--|----------------|-------|---------|----------|-------------------|-----------|
| 1 The course met the objectives and topics described in the syllabus.                                | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |
| 2 The instructor was well prepared for the classes.  | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |
| 3 The instructor's knowledge level was high enough to teach the course.                              | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |
| 4 The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning.                    | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |
| 5 The instructor encouraged students comment and discussion.   | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |
| 6 Instructor's interest in whether students learned was high.  | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |
| 7 The amount of work assigned was reasonable.  | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |
| 8 The course was well organized in terms of contents and time allocation.                            | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |
| 9 The instructor answered students' questions clearly and sufficiently.                              | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |
| 10 You prepared and reviewed thoroughly for the classes.   | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |
| 11 You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics. | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |
| 12 You have obtained analytical abilities and critical thinking from the course.                     | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |
| 13 Overall, you are satisfied with the course, and recommend it to your fellow students.             | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |
| 14 Course content were highly relevant and useful for your future career.                            | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |
| 15   | ⑤              | ④     | ③       | ②        | ①                 | ①         |

Thank you for your cooperation.

# 授業評価 アンケート回答用紙

このアンケートは、授業をより充実させるための資料として教育改善を図ることを目的として実施します。  
この調査回答があなたの成績に影響することはありません。率直に、かつ責任ある回答をしてください。

**記入上の注意**

1. 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例



|      |    |
|------|----|
| 科目名  |    |
| 担当者名 |    |
| クラス  | 曜日 |

|         |            |             |            |             |         |
|---------|------------|-------------|------------|-------------|---------|
| 学年      | ① 1年       | ② 2年        | ③ それ以上     |             |         |
| 所属専攻    | ① 経営戦略     | ② 会計専門職     | ③ その他      |             |         |
| 出身学部    | ① 商・経済・経営系 | ② その他の社会科学系 | ③ 人文系      | ④ 理系        | ⑤ その他   |
| 実務経験年数  | ① なし       | ② 3年未満      | ③ 3年以上7年未満 | ④ 7年以上20年未満 | ⑤ 20年以上 |
| 公認会計士試験 | ① 受験予定     | ② 受験しない     |            |             |         |

**記述評価項目**

a) この授業で良かったところを具体的に書いてください。

.....

.....

b) この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください。

.....

.....

c) この授業に関してほかに気づいたことがあれば書いてください。

.....

.....

|  | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
|--|---|---|---|---|---|---|
|  | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 1 授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか。    | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 2 教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか。             | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 3 教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか。   | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 4 授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか。  | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 5 教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を払いましたか。    | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 6 教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。        | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 7 この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。           | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 8 授業の内容と時間配分は適正なものでしたか。               | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 9 教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか。               | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 10 この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか。      | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 11 この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 12 この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか。     | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 13 この授業は全般的に満足いくものでしたか。               | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 14 この授業は、今後の学習にとって有意義なものでしたか。         | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |
| 設問 15                                    | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ① |



